

2023年度 事業計画

施設名 身体障害者自立体験ホーム なかまっち

1 利用計画数

事業名： 自立体験室事業（一般入居）	定員：3人	実人数：5人	延人数：5人
事業名： 自立体験室事業（短期入居）	定員：2人	実人数：10人	延人数：100人
事業名： 短期入所事業	定員：2人	実人数：100人	延人数：350人
事業名： 短期入所事業（緊急利用）	定員：1人	実人数：20人	延人数：40人
事業名： 日中ショートステイ事業	定員：1人	実人数：35人	延人数：320人

2 事業実施計画

(1) 活動・支援の内容

概要

- ① **自立体験室事業（一般入居・短期入居）：世田谷区独自事業**
18歳以上かつ、区内に3年以上居住し、地域での生活を目指す身体障害のある方を対象として、一人ひとりの適性や目標、利用期間に応じた地域移行プログラムを提供すると共に、退所後の地域生活が円滑に行えるよう支援チーム作りを行う。
- ② **短期入所事業（緊急利用含む）：障害福祉サービス事業**
区内に居住し、身体障害者手帳及び障害福祉サービス受給者証を持つ65歳未満の方を対象として、本人の体験や家族のレスパイトのため、3泊4日を上限とした宿泊利用と、それに伴う介助を行う。また、国や世田谷区の推進する「地域生活支援拠点」として、本人や家族等に緊急の事由が起きた際には、緊急短期入所として受け入れを行う。
- ③ **日中ショートステイ事業：自主事業**
短期入所に準じたサービスを日帰りで提供する。

(2) 地域交流

- ① **地域住民との交流・連携**
ホームページを用いた情報発信を積極的に行うほか、少人数でのイベント開催を通じて、利用者や地域とのつながりを生み出す。
- ② **関係地域機関との連携・交流**
自立体験室事業のプログラム変更に伴い、世田谷を中心とした地域生活に関する各種社会資源との結びつきを強め、連携できる関係性を構築する。また、自立支援協議会や玉川支援ねっとなどへの参加を通じて、地域の諸機関とのさらなる連携を図っていく。

(3) 家族、関係機関との連携等

- ① **本人・家族からの情報収集**
支援記録に基づき、次回利用に備えて必要な情報を利用者・家族から収集する。また利用者の新たなニーズや支援者の気づきを中心に、情報ファイルの更新を随時行う。
- ② **ケース会議（支援会議）の開催・参加**
自立体験室（一般入居・短期入居）においては、引き続き支援者会議やカンファレンスを定期的に行うことで、効果的に支援プランの策定と評価が行えるようにする。また、他施設から参加要請があった場合にも協力できるようにする。
- ③ **医療的ケアへの理解促進**
医療的ケア児・者が増えている現状を認識し、今後どのような受け入れが可能なのか、嘱託医や法人他施設のナースとケーススタディを行う。また、実際に医療的ケアを行っているほか施設を訪問し、知見の蓄積を図る。

(4) ボランティアや実習生の受入れ

清掃などにおいてボランティアの導入を図るほか、見学者に関しては随時対応を行う。

(5) 危機管理

① 感染症対策

新型コロナウイルス対応マニュアルや、BCP（事業継続計画）に基づき、館内の定期消毒や感染防護措置、対応訓練を行うほか、インフルエンザやノロウイルスへの対策も引き続き行う。一方で、新型コロナウイルス感染症の5類変更に伴い感染防護対策を緩和し、食堂での食事等についても順次再開していく。

② 防災・減災計画

定期的な防災備品管理を行いながら、災害備蓄を継続的に行っていく。自然災害対応BCPを元に年2回の防災訓練を行い、避難順路確認や安全確認動作の定着を図る。

③ 防犯計画

各種防犯設備の使用法等を定期的に確認することで、有事での迅速な活用につなげる。

④ 情報共有

電子化を推進し、グループウェア等を用いて情報共有や更新が行いやすいようにする。

(6) 職員研修の実施

① 個別研修・地域生活ラボ

法人研修計画に準じた個別研修計画を作成する。また、複合的な視点から支援を展開する必要があるなかまっち事業において、職員の専門性を「障害」「介護」「制度」「地域」と位置づけ、「地域生活ラボ」と題した場において共有する。

② 介護から相談支援まで…幅広い研修受講体制の構築

多事業を運営するなかまっちにとって、ケアワークからケースワークに至る、横断的な知見や実践は欠かすことができない。各福祉士国家試験はもとより、医療的ケアや相談支援など、幅広い分野での専門知識を得るための機会を確保できるようにする。

③ キャリアパスに基づいた研修参加機会の確保

法人キャリアパスに基づき、なかまっち全職員が、それぞれの業務やキャリアに合った研修にフレキシブルに参加できる機会を確保できるよう、オンライン研修を随時行えるようにする。

④ 福祉動向・施策・支援などの情報蓄積

「支援情報ライブラリー」に国内・地域での各種支援情報を引き続き蓄積し、支援や地域生活ラボにおいて活用する。

3 重点目標と取り組み

① 自立体験室事業の核となる「らしさブック」を中心とした支援

自立体験室（一般入居・短期入居）において、利用者主体の地域移行支援を行うため、「自己紹介シート」や「アセスメントシート」から個別支援計画「らしさ計画」を作成し、「生活づくりシート」等の運用によって、本人の自発性を重視した生活を構築する。またこれらに「地域生活マップ」を加えた「らしさブック」を運用開始し、利用者と共に活用を行う。

② 短期入所事業（緊急利用含む）における安定的なサービス提供体制の構築

令和4年度より地域生活支援拠点等に登録されている短期入所事業であるが、従事する職員の確保が常時厳しい状況である。社会情勢や労働者の意識変化を踏まえ、安定的な利用者受け入れに資するサービス提供体制の再構築に向けて、法人事務局や世田谷区と共に協議しながら取り組む。

③ 地域生活につながる生活の場の構築…等身大の交流づくり

感染症対策で行う事が出来なかった食事や行事における交流や、地域交流を順次再開する。大小さまざまな交流から、利用者間での新たな人間関係や、利用者のなかまっちにおける役割が生まれることが期待される。自立体験室利用者においては、そのような経験を今後の地域生活においても活かせるよう働きかけていく。